

HRI リサーチレポート 2007

10年後の社会と生活、「10年後の日本をイメージする 不安の時代を克服するために - 」

ヒューマンルネッサンス研究所 2007年9月1日刊を読む

ヒューマンルネッサンス研究所について

1. 株式会社ヒューマンルネッサンス研究所(HRI)は、オムロン株式会社 100%出資による、未来を展望する社会・生活研究シンクタンクです。
2. オムロンでは、創業者の立石一真が 1970 年に発表した未来社会シナリオ「SINIC 理論」(Seed-Innovation to Need-Impetus Cyclic Evolution)を、未来予測の拠り所としています。これは、科学・技術・社会の相互の円環的關係をもとに過去から未来へのシナリオを描いたもので、このシナリオに基づくと、これから 21 世紀半ばに向けた社会は、これまでの「工業社会」から「自律社会」へと大きなパラダイム・シフトを遂げると予測されています。そして、そのような価値観の相克の渦中から一人ひとりが最適な生き方を探り、見出していくための現在は、「最適化社会」と位置づけられています。日本社会を見渡すと、情報化、少子高齢化、地球環境問題など、これまでの社会の流れの延長線上をたどるだけでは、先を見通しにくい状況にあるのは確かです。
3. しかし、このような時代だからこそ、信頼できる未来への羅針盤を持ち、「人間が、より人間らしく幸せに生きることができる社会」への道筋を明らかにしていくことが大切であり、企業はそのために「社会の公器」として役立ち続けてこそ、未来から選ばれる企業となり得るのではないかと考えています。
4. このような背景をもとに HRI では、自律した多様な個人が互いに認め合い、支え合い、刺激し合って、共に生きる社会を「自律社会」のコンセプトととらえて研究を進めています。そして、これからの科学・技術の動向も踏まえ、社会システムや、「学ぶ」「働く」「遊ぶ」といった生き方や暮らしに関するテーマを掲げ、国内外の未来研究機関とのコラボレーションを含めた調査研究を展開しています。

[コメント]

10年後の社会のみならず、人間としてこれからの社会を生き抜く基本的能力の1つが「自律的に活動する能力」であると私は考えるが、ヒューマンルネッサンス研究所の示した「自律社会」はそのような人々によって構成される社会と思う。非常に意味ある概念と高く評価したい。

- 2010年10月18日 林 明夫記 -